

1997.12.22

絵本学会 NEWS No.2

発行：絵本学会

発行日：1997年12月22日

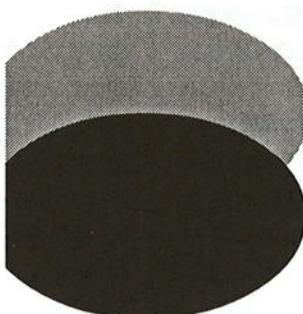
編集：絵本学会事務局・広報委員会

事務局：〒187 東京都小平市小川町1-736

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン研究室内

TEL : 0423-42-6091 FAX : 0423-42-5173

<http://vcd.musabi.ac.jp/~ehongaku/homepage.html>



「絵本フォーラム'98」開催
「絵本フォーラムのこと」 太田大八
会員の声
インフォメーション
事務局からのお知らせ
第1回絵本学会大会開催のお知らせ
専門委員会から

絵本学会

「絵本フォーラム'98」開催

絵本学会主催「絵本フォーラム'98」が、1月15日に世田谷文学館で開催されます。

保育園、幼稚園、学校、図書館、文庫などで、子どもたちと日々向かい合いながら
絵本を考えている方々。作家・編集者・翻訳家など、絵本創作の仕事に携わっている方々。

子どもたちに最高の絵本を手渡したいと励んでいる書店や出版社の方々。

絵本に今までとはちょっと違った新しい価値を発見しようと考えている方々。

そして何よりもおかあさん、おとうさん。さらには自分が楽しむ絵本ファンなどなど。
何はともあれ一堂に集まって、ワイワイガヤガヤと意見を交換してみよう、という試みです。

絵本学会主催の『絵本フォーラム'98』が、来る1月15日（木・成人の日）午前10時30分より、東京の世田谷文学館で開催されます。絵本学会は、「さまざまな分野で絵本に関わる人々が集まって、自由に討論・研究・勉強を楽しむフォーラムを」という太田大八氏の提唱が発端となって誕生しました。企画委員会では、この太田氏の提唱にこめられた精神が、この学会の性格を明確に示すとともに、学会に参加した多くの方々の期待もまたここにあると考え、この『絵本フォーラム』を企画しました。名称を「絵本学」とせず、敢えて「学」を外して「絵本フォーラム」としたのは、このためです。

記念すべき第1回のテーマは、「絵本は「いま」～現場からの報告」です。保育園・幼稚園・学校・図書館・文庫等で、子どもたちと日々向かい合いながら絵本を考えている方々。作家・編集者・翻訳家など、絵本創作の仕事に携わっている方々。子どもたちに最高の絵本を手渡したいと励んでいる書店や出版社の方々。絵本に今までとはちょっと違った新しい価値を発見しようと考えている方々。そして何よりもおかあさん、おとうさん。さらには自分が楽しむ絵本ファンなどなど。今回の『絵本フォーラム'98』は、このような色々な立場から絵本を見つめている人たちが、何はともあれ一堂に集まって、ワイワイガヤガヤと意見を交換してみよう、という試みです。

第1部では、4人の方々に、それぞれの異なる立場から、絵本の現在の状況を報告いただき、第2部では、4つのセクションに分かれ、第1部の報告者をmajieて、ご参加された皆さんに気楽に絵本の現況を語り合っていただきます。第3部では、再び一場に集まって、第2部でさらに浮かび上がった絵本の現在の問題を考える予定です。『絵本フォーラム』は、決して固苦しい研究会ではありません。とくに今回、共催として会場をご提供いただいた世田谷文学館は、芦花公園近くの素敵空間です。その見学も兼ねて全国から多数の方がご参加されることを希っております。

今後、企画委員会では、幅広く会員の皆様が参加できるような様々なイベントを提案していく予定ですが、その中核に、この「絵本フォーラム」を置き、あらゆる人たちが自由に絵本との関わりを語り合い、絵本の体験や創作や研究の成果を発表し合える場として、少なくとも毎年2回程度、継続的に実施して行きたいと考えております。今回は東京での開催ですが、もちろん東京だけではなく、各地域持ち回りで開催することも考えておりますので、会員の皆様からの積極的な働きかけを期待しております。

(企画委員会・香曾我部秀幸)

「絵本フォーラムのこと」

太田大八

「絵本フォーラム」というネーミングはいいと今江祥智さんに言われたことがあった。また「絵本学」は「絵本楽」であるとも言われた。あれからもう3年ほどたっているかも知れない。ともあれ1997年5月、絵本学会は設立された。そして今、「絵本フォーラム」が始まろうとしている。今江さんの言われるよう、絵本学は楽しんでこそ成るものだと思う。いやすべての学問は楽しんでこそよい成果が得られるにちがいない、音を楽しんで音楽というように。

「絵本フォーラム」に立ち至った経緯は、私の中に潜在していた一つのカルチャーショックからきているのだと思う。

1970年3月、ロスアンゼルスの児童図書館を訪れたのがきっかけで、その後サンタバーバラのホリデイ・インで行われる「The Breakfast with Authors」（作家達と朝食を）という会合へゲストとして招待されたことがあった。ここの大きな食堂に集った約400人以上の、子供の図書に関わる作家、画家、ライブラリアン、教育関係の人々が、朝の8時半から朝食を食べながら話している。私は英語は駄目だが、本に関わる子供文化全般についての話であることは察しがつく。司会者がユーモラスに会を進めていくが、難しい議題、討論といった固さは全くない、和気あいあいの雰囲気であった。組織的に、定期的に行われているこの催しは、着実に文化的な土壌を耕しているように思えた。時には専門分野を越え、共通の問題意識の中で交流を図ることがそれぞれの栄養となり、文化の体质が築かれていくのだと思う。

翻って日本はどう考えたとき、一つのギャップを感じざるを得なかつた。

日本でも子供の本に関わる活動をしているたくさんの団体、組織がある。全国的にもさまざまなサークル活動もあるだろう。近年広がりを見せている絵本美術館等、これらのさまざまな活動の情報を相

互に知らせ合うことができたら、低迷が懸念されている出版文化の活性化に役立つことになるだろう。

これも絵本学会、絵本フォーラムの活動に期することが大きいと思う。

辞典などの「絵本」という項目には、単に絵を主とした子供が見る本、江戸時代の絵草紙などとあるが、とてもとてもそんな説明でおさまりきれるものではない。絵本をコミュニケーション・アートの一環として考えるとき、その内容の深さ、広がりの膨大さを感じてくる。

●コミュニケーション（意思の伝達）それは、何のために、何に向かって、何を伝えようとしているのか。

●アート（芸術、美術）これらの美の存在が、伝達にどのような役割を果たしているのか？

神様、あるいは大自然が、生物の種の保全のためにか、五感（視、聴、臭、味、触）といった知覚を生物に与え、人間はその機能を道具の発見によって飛躍的に発達させた。知る、知らせる、反応する行為によって人間社会はどんどん発達している。私はそれらを知ることは、考古学者が土の中から掘り出したものの砂をはらいながらさまざまに推論を立て、新しい発見をするように、とても面白いことだと思う。学とはそうしたミステリアスな興味を伴っているから面白いのだと思う。

絵本だけでもその学問の根っこは広く、とても一人では消化しきれない大きな学問の領域である。しかし幸いにして学会という組織は、多くの専門家や経験者の参加があることによって、さまざまな知識や技術を学ぶことができるだろう。

ただし、文化も文明も明暗二つの世界をもっている。特に、今日の社会が一部のエゴイスト達によって引き起こされる地球規模の危険を感じている人は少なくない。そこで今、絵本に何ができるかということではないだろうか。

絵本フォーラム'98 絵本は「いま」—現場からの報告一

開催概要

日時=1998年1月15日（木・祝）10時30分～15時30分
(10時開場)

会場=世田谷文学館 文学サロン

主催=絵本学会／世田谷文学館

●第1部● 報告

1. 受容の現場（保育園・幼稚園・学校・文庫・図書館・読者など）から。
報告者=村中李衣氏（梅光女学院短大）

2. 創作の現場（作家・翻訳家・編集者など）から。
報告者=川端 誠氏（絵本作家）

3. 流通の現場（書店・出版社など）から。
報告者=土井章史氏（トムズボックス）

4. 再発見の場（研究家・評論家・美術館・文学館・他領域など）から。
報告者=中川素子氏（文教大学）

●第2部● 分科会

4セクションに分散、報告者をmajieて談論。

●第3部● 全体会

各分科会からの報告。

●応募方法

定員 200名(先着順)

参加費=【会員】無料 【非会員】500円（資料代含む）

参加申込・問合せ=世田谷文学館 絵本フォーラム係

〒157 東京都世田谷区烏山1-10-10

TEL.03-5374-9111 FAX.03-5374-9120

交通=京王線芦花公園駅

南口から徒歩5分

小田急線千歳船橋駅からバ

ス（京王バス23系統 千歳 至千歳烏山駅）

烏山駅行 蘆花恒春園下車

徒歩5分



会員の声

今秋、会員の皆様に向けてお願いしましたアンケートに、多数の方々から回答をいただきました。お忙しい中、貴重な声をありがとうございました。皆様から寄せられた、絵本（または絵本学会）に関するさまざまな声を、ここに掲載させていただきます。内容は次の通りです。

①今年印象に残った絵本・展覧会

②活動報告

③絵本学会への要望

④その他、欲しい情報など



①マリー・ホール・エツ『ペニーさん』

(石川晴子)



①荒井良二絵・花村カナ文の『リョウのかぶとむし旅行』、とってもたくさんのおまけがついていて面白かった。少々高価だが買ってよかったです。

(根間仁美)



①『きつねのおふろ』と『フンガくん』（国松工力作、偕成社）、『さむがりやのネコ』（わたなべゆういち作、フレーベル館）独特の世界観は何度読んでも楽しく、面白い！子供は本当に面白い絵本が好きなんですね。

(高崎智子)



①『はらっぱ』（童心社）、『山んばあさんとむじな』（徳間書店）、『ふしづなナイフ』（福音館書店）です。特に『ふしづなナイフ』はイメージする力が得意ではない自閉症の子ども達も楽しめる本でした。ただ巡っていくばかりではなく必ず表紙に戻っては、『まがる』ページに戻ったり、『ねじる』ことを繰り返すとても楽しめる本でした。『はらっぱ』と『山んばあさんとむじな』は、私個人がとても親しみを感じることができた本でした。

(菅野千鶴子)



①舟崎克彦氏作『世界の神話絵本』（ほるぷ出版、全8巻、1997年、絵は橋本淳子、木村かほる、横尾美美、合田佐和子、東逸子、北見隆、スズキコージ、宇野ア喜良）。Sergei Goloshapov 絵『The Six Servent』（North-South Book, グリム童話、1996）。『SUZUKI・COHJIZUKIN・BALI・BATIK展—スズキコージのバリ・ローケツ染の腰巻型大漁旗合戦』（スペースユイ、8月）、「スズキコージの巨大ダンボール怪獣制作中展」（松明堂ホール、9月）、すごかった。

(松本有一)



①木菜井悦子作『おおきいそら』、『クロでがみかこう』『アジア、アフリカ、ラテンアメリカ絵本イラストレーション'97』そこで出会ったサリム・M（インドネシア）さんの絵は、深くしみ入る感じでした。展覧会で見た絵の1枚しかカタログにのっておらず、残念に思っています。また出会いたい作家の方です。はずかしながら、今頃、木菜井悦子さんの本と出会い、インスピアイされまくり状態です。全部まだ読んでいませんが、図書館で借り

た『おおきいそら』はSpecial!! 気に入ったモノです。『クロでがみかこう』は、奇跡的（？）に手に入れることができ、もう感激がありました。

(木内靖子)



①『ペニーさん』（徳間書店）：1993年に創元社より『絵本の歴史をつくった20人』を出版した時エツを担当したものの、その時、自分なりの訳で自信がないままあらすじを書いた私には、今回、松岡享子さんのすばらしい訳の出版に、感激して読んだ。

(森本和子)



①『安曇野ちひろ美術館』で開催された展覧会は15ヶ国（100人）の絵本作家の原画が楽しめました。そして「安曇野絵本美術館」（穂高町）、「小さな絵本美術館」（岡谷市）も素敵でした。

(布山美保子)



①「'97イタリア ポローニヤ国際絵本原画展」：有名な原画展ですので、ご存知の方も多いでしょう。世界唯一の児童図書専門のブックフェアのイベントの一つとして行われている絵本原画展コンクールの入賞作品を集めたもので、世界各国から力作が揃っています。絵本の可能性を垣間見ることのできる、貴重な展覧会です。

「世界の絵本原画展」：野間国際絵本原画コンクールの受賞作品を展示了したもので、特徴として、アジア・アフリカ・ラテンアメリカなど、普段なかなか目に触れる機会の少ない国々の絵本作家の作品を取り上げていることが挙げられます。それぞれの国の民族性があらわれており、興味深い内容になっています。

毎年、夏から秋にかけては、絵本の原画展が目白押しです。今年も5つほど回ってみましたが、その中の2つを紹介しました。



①『きつねのきんた』、『木を植えた男』

最近目にしたり読んだりした絵本の中では、『きつねのきんた』が心に残っています。いつもと違う先生の描く絵が優しくて大好きです。遠い昔、自分がまだ幼かったころに読んだことがあるような、脳裏のすみに懐かしいものがありました。

又、『木を植えた男』というフランス人作家のかいたものは、激動する社会情勢の中で、たんたんと自分の為しえることを為し続けた男の生涯が描かれていて、こんなふうに自分も生きられたらと思うと、この本もきっと、これから私の一冊になるのではないかと思います。

(外山夏美)



①太田大八作『絵本西遊記』とその原画展。

絵の素晴らしさは言うまでもありませんが、物語の天空に遊ぶ自在な心を、その絵に感じたのです。日中交流のためにも、画期的なものだったと思います。

(きどりこ)



◆
①長野とぎ子作『お母さんがお母さんになった日』、サム・マグリット作『どんなにきみがすきだからててごらん』
『お母さん…』は長野さんご本人が、『どんなに…』はお話し会の仲間がいずれも読み聞かせをしてくれた本です。優しい声と雰囲気によって優しい幸せな世界が生まれ、とても感動したのです。
(岩田玲子)

◆
①サム・マクプラットニイ 文、アンタ・ジェラーム 絵『どんなにきみがすきだからててごらん』(評論社、小川仁央 訳)
チビうさぎとデカうさぎが「きみのことこんくらいすき」って「すき」の大きさを競っていくお話。「こ～んなにすきだよ」「ぼくはこ～んなにすきだよ」ってやりとりするところが面白く、心温まります。子供にも聞かせたい絵本です。

(三田貴子)

◆
①「BIENNALE OF ILLUSTRATIONS BRATISLAVA'97」
Martin jarrie 作『TOC.TOC! monsieur CRIC-CRIC!』 LE COLOSSE MACHINAL (Editions Nathan) Paris-France
(杉田豊)

◆
①ディック・ブルーナ作『ミッフィーのおばあちゃん』
「ボローニャ国際絵本原画展」イタリア、

(石川真季子)

◆
①谷口こうた 絵、文『にちようび』(至光社)、「ふしぎなおじさん」(講談社) 感じる絵本『なつのあさ』『のらいぬ』の作者の十年ぶりの新作。

「五味太郎の世界展」(1997.6.28～8.10 世田谷文学館)
創作絵本(ストーリー絵本)のほかことわざ絵本、ゲームブック、ことばの絵本、らくがき絵本…絵本の可能性にチャレンジする作家、五味太郎の世界を多角的に紹介。原画100点のほかに、インターネットコーナー、読者参加の「らくがきコーナー」、五味太郎の世界を紹介するビデオコーナーが新鮮。長新太、角野栄子、五味太郎の座談会も好評で、その一部は月刊クーヨン10月号に掲載。
(世田谷文学館 生田美秋)

◆
①センダック作『ジャックもガイもみんなホームレス』
(内海幸代)

◆
①『ちびくろサンボ』、『バターになったトラ』の再刊。(まだ現物は見ていません)
(加持ゆか)

◆
①スズキコージ作『きゅうりさんあぶないよ』(福音館書店)
結城昌子作『あーとぶっく9、クレーの絵本、どっちが主役?』(小学館)
「97イタリアボローニャ国際絵本原画展」
(甚賀ちはる)

◆
①『立絵』、『双六』、『立版古』という日本伝統の児童文化財的な作品があったことがとても興味深く思いました。

(村川京子)

◆
①『桐壺(源氏物語より)』小学校6年生の授業に採用したところ、子供達が子供向けの本に興味を持つきっかけとなり、好評でした。

『地球の子供達』小学館

(神戸由美)

◆
①アール・A・グロルマン作『死ぬってどういうこと?』(春秋社)
せっかくの絵本学会にいつもどういう形で参加したら良いのかと、戸惑っています。最近親の死に際し、日常での「死」を語ることがタブーとなっていることを痛感しました。そんな最中で出会った『死ぬってどういうこと?』は、「教える手段としての絵本」の可能性を感じさせてくれました。私なりに、「死」のとらえ方を何かの形に表したいと思い、現在模索中です。

(横田久美子)

◆
①小学校の子供達に、グリムのお話で「どのお話が好き?」と尋ねたら、私の予想外に、「漁師とおかみさん」という答えが多くありました。何でも手に入るこの時代、最後のどんでん返しを冷静に受け止める子供達の様子。なぜこの本を選んだのだろう、としばらく考えましたが、子供だからこの本を選んだのかも知れません。

(緒方はつみ)

◆
①「レオ・レオーニ」展。

学生の時、色彩の授業で『あおくんときいろちゃん』に出会って以来、この本は大好きになりました。レオ・レオーニの「人に分からぬ言葉を使うことはとても罪深いことです」とう言葉のように、彼が作った全ての絵本の中にはやさしさがあふれているようです。

私は子供ができるまで本の装丁の仕事をしていました。今は子育て中心の生活ですが、子どもの視線で見るやさしくて美しい絵本作りを夢見ています。

(柴田百合香)

◆
①『のんのクリスマス』(シーム出版)

②「クリスマス」のお祝いはクリスマスじゃなくとも楽しめられます。年を忘れるのではなく、想い出すparty!皆さんとできれば幸いです。中島みゆきの「ありか」からとったペンネーム。いつも本に接していたい編集者です。

皆様との交流を深めたく思いますので、もっと頻繁に集まる機会(party等を含む)を設けて下されば幸いに存じます。(中島ありか)

◆
①『のはらひめ』『おふう』『およげ、ラッコぼうや』『かえるくんのおつきみ』『おどるねこネリー』『おしゃれねこ』等

②印象に残った絵本は3歳の娘に読んであげた絵本の一部ですが、大人でも楽しめる内容がとっても印象に残りました。たくさんあると思われる良い本を自分一人で、自分だけで選ぶのはなかなか難しいので、皆さんと一緒に楽しみながら読むようにしています。

③知りたい情報…

1. 子供向け、大人向け等の分野に分かれた絵本の刊行状況
2. 創作童話、または創作絵本の公募状況
3. 絵本の専門分野の方、一般・主婦等のような分け方になっているペンパル募集の欄

4. 外国、日本国内を問わず、会員同志が交流できるような絵本をめぐる旅行ができたら、楽しいと思いました。

5. ポップアップ絵本の作り方

(松山裕子)



①駒形克己作『ぼく、うまれるよ！』

②総会シンポジウムで紹介された駒形克己氏の絵本『ぼく、うまれるよ！』を見て深く感動し、しきけ絵本に対して興味を持ち、他の絵本を調べ始めました。今までの安易な興味づけは良いイメージを持ってなかった私ですが、図書館内にある100冊あまりの仕掛け絵本との接触はとても勉強させられるものが多くありました。特に『ぼく、うまれるよ！』は何人かのお母さん方にも深い感銘を与え、私はこの絵本を持ち歩きながら感想を聞き出しました(70名)。身体全身できいた、お腹の中が熱くなる、感動で心が震えた等々。子供達にはまだ読み聞かせていないが、機会があればアタックしようと思っています。絵本とは見て楽しむ、聞いて楽しむ、触覚も楽しめるのだ！！という発見がありました。

(藤井スミ苑)



①レイフ・クリスチャンソン文、にもんじまさあき訳『わたしのせいじゃない』(岩崎書店)

②小学4年生のクラスで「読み聞かせ」のボランティアをしています。次回はこの本を読んでみたいと思っているが、反応はいかに。(山口留美子)



①絵本『きんぎょのおつかい』

展覧会「絵本力一二バル」

②私たちは絵本を基本とした子育てのサークルです。毎月1回顧問の先生を中心とした勉強会を、また、年3回子供達の休みを利用してお話しを行っています。内容は、先生の読み聞かせ、お母さん達の指人形やパネルシアター、紙芝居、手遊び等です。

(子そだてさろん 志賀幸喜)



①ピーター・マイル作『マタニティ・パパ』、松田道雄作『赤ちゃんへの贈り物』という絵本は面白かった。

②11月中旬に出産する予定です。4月～9月の半年間、学生に戻り情報処理の勉強をし直していました。現在は主婦で、時間がたっぷりあるので、図書館で育児書をたくさん借りてきては片っ端から読んでいます。子供が生まれたら、しばらくの間、母親業に専念する予定なので、ますます絵本と触れ合う機会が増えることだと思います。その折々に、絵本学会から届く情報は楽しみであり、また私たちも情報発信できたらいいなと考えています。今後の活動に期待しています。

(石橋ゆかり)



①『にじいろのさかな』

②日々忘れかけている、相手への思いやり、分け合い、幼児期いえ人間、生あるものとして忘れてはいけないことではないでしょうか。そして美しいものを見て美しいと感じる素直な心を持ち続けたいと願います。私は個人的にニューヨークで地道に日本の民話を紙芝居のように子供達に読み聞かせをされている方と絵本の交換をしたり、自分のしている幼稚教室で生かしたりしていますが、もっと多く交

換できる場があればと思います。アメリカから彼女も情報交換を願っていると思います。

(竹内カオル)



①ミック・インクペンの絵本

7月12日にオープンしたハケ岳小さな絵本美術館はステキでした。またゆっくり出かけたい！

②農業しながら15年勤めた市の図書館の分室の仕事をやめて、さぞ寂しくなるだろうと思っていたけれど、今は一利用者として分室を訪れる。新聞に載るまだ読んだことのない絵本をせっせとリクエスト。いつか私も絵本を書いてみたい…。子供が(もう成人している)絵を描いてくれたらうれしい…。

(東城正子)



①『The Unicef Book of Fairy Tales』20カ国の昔話の寄せ集めなのですが、イラストレーションが素晴らしい。個性豊かでさすがという感じ。

太田大八さんの「ぶたぶたこぶた」展。子供の本の店「りとる」に入るきっかけとなり、作家のおのりえんさんとも出会うことができました。

②働く母なので、周りの人とは、絵本や子供の本に関して共通の話題をもてずにいます。この場で横つながりが得られたらと願っています。絵本の店の個性的な「通信」を特集してもらえないでしょうか。

(石川はな)



①長新太作『どろにんげん』(『こどものとも』500号、福音館書店)長さんの作品はいつも奇想天外で驚かされますが、『どろにんげん』『たこ』『さつまいも』、そして『火山でやきいも』の発想のおもしろさ、子供と毎晩「ごおー」と言って笑っています。

②3歳3ヶ月なる娘は、毎晩ふとんの中で10冊くらい絵本を読まないと寝ると言いません。絵本に囲まれて育って欲しいと願っていましたが、毎晩、それも同じ本が続くので少々きついこともありますが、子供がせがむ間は、読んでやりたいと思っています。

絵本学会設立と同時に、図書館での絵本読み聞かせの会に入りました。手遊び、ペーパーサットの劇などを行っており、子供達の喜び姿を楽しんでいます。今は読み聞かせだけで精一杯ですが、創作などもできるようになっていけたら、と思っています。

(吉川祥子)



①佐藤忠良画『ゆきむすめ』

②絵本作家西巻茅子さんの講演会を拝聴したところ、とても参考になりました。

③会員名簿の発行による同県人の方との交流が楽しみです。そして、学会の活動が一日も早く始まる事を願っております。

(佐藤英一)



①Istvan Banyai作『REM; Rapid Eye Movement』Penguin Books U.S.A.

②保育科生と言葉Ⅰ・ⅡでゼミナールⅠ・Ⅱで、卒業生と研究会で絵本たちに触れながら創作表現を感じると新たな模索をしています。

1万5000冊以上の本との出会いから「素敵な」本のリストを作製中。保育現場で生かしたいと思っています。

(佐々加代子)

◆
①ロビン・ベル・コーフィルド絵『おばあちゃんのはねまくら』
②日本出版振興財団（JPAC）の読書アドバイザーセミナー2期生として、セミナー修了後、仲間5～6人と「読み聞かせ」サークルを作り、活動をしています。書店やその他の場所での読み聞かせの自習学習会実戦活動等は4年目になり、細々とですが息の長い活動をと思っています。

(長澤和子)

◆
①『カニツンツン』ストーリーそのものではなく、絵（形）を見て、見る人が、色々な想像を可能にするので、子供が楽しめるようでした。
③絵本といつても色々な種類があることを改め感じました。以前の絵本についての講演では、子供の頃、怖いものや恐ろしさを感じる本と出会うことで、子供たちには壁にぶつかった時、その障害を乗り越えられると聞きました。今後もこのような講演に参加できる機会がもっとあって欲しいです。また、自分の身近な地域で何かできないかと思いますが、今のところ適切な情報と遭遇できない状態です。

(津村待子)

◆
①Ed Young／Harcourt の『Mouse Match／A Chinise Folktale』

③今後の絵本学会の予定、行事、企画等を知らせてください。
学会誌の刊行を、そして、多岐に渡る論文や情報等の活発な交換ができるることを願います。

(藤本朝巳)

◆
①Helen Nikol and Jan Pienkowski 作『MEG an MAG』(1972, Puffin Books) オノマトペの表現方法（視覚的効果）が面白いHalloween のお話

安曇野絵本美術館での「John Birmingham 展」

③絵本学会を、日本語絵本学と外国語絵本学に二分化し、さらに外国語絵本学は英米系とその他に細分化、または、それぞれ得意言語による分化担当を決めるというはどうでしょうか？（私は英米科に所属できると思います）

(小林容子)

◆
①ガブリエル・バンサン作『バブーリとフェデリコ』
1 森に暮らして 2 海辺で 3 でっかい木
③絵本作家方々の講演会を企画していただきたいと思います。

(山岸圭子)

◆
①ロジャー・デュボアザン作『カバのベロニカ』
③絵本学会でおすすめの絵本を紹介して欲しいと思います。

◆
①谷川俊太郎作の『しがはいったクレー』
絵本学会News第1号、つくづく深い分野だと痛感しました。私も現在の専攻は絵画ですが、その原点は絵本にあったと言っても過言ではありません。最近では子ども向けの絵本も好きですが。『しがは

いたクレー』はもちろん、お子様にも読んでもらえる内容なのでクレーの世界への第一歩として読まれてみてください。

(木下涼子)

◆
①工藤直子作『ともだちは海のにおい』（理論社）、長谷川摸子・降矢奈々『おっきょちゃんとかっぱ』（『こどものとも』福音館書店）が、今年最も心に残った絵本（童話）です。

本では、『詩（うた）のこころに生きた人々』（ちくま文庫、茨木のり子）が今年のベスト1です。

③例えば、毎回1冊の本（絵本）をテーマに、会員が文章やメールなどで感想をもちよれるような企画があるとおもしろいかな？と思います。知らない本を読むきっかけにもなるし。2号以降はよりとつつきやすい紙面だともっとうれしいです。

(松本かおる)

◆
①学会設立時の展示絵本。

③関西地域での企画も計画していただきたいと思います。会の発展をお祈り申し上げます。

(林光子)

◆
①3月～5月「フジタヴァンテ絵本展」、3月下旬「絵本カーニバル」：種類別または子供が楽しめるスペースが用意されとてもよかったです。

③絵本専門店紹介、年間展覧会スケジュールが（早めに知りたい）情報として欲しい。

(佐久間千華子)

◆
①「遊ぼう！絵本・えほんカーニバル'97」
スペースが広く、いろいろなコーナーがあり、絵本を自由に読め、子供も楽しんでいました。
③絵本の作り方を指導してくれるような教室や絵本を作っているサークルやグループ。

(津守ますみ)

◆
①紙芝居『ふしきなまど』（作品番号1536、1600円、1997.2.1発行、童心社）、『なんでないているの』（作品番号1564、1600円、1997.10.1発行、童心社）以上2冊やべみつのり脚本・画『こころのうた—子供がつくった詩の本』（1400円、「こころの詩」大賞コンクール制定委員会編、やべみつのり絵、1996.9.30第1刷発行、佼成出版社）すばらしい本です。

③詩と絵がのった絵本をたくさん出版してください。イラストレーター・やべみつのりのファンの一人です。

(平島二郎)

◆
①『すずの兵隊』（ボローニャ国際絵本展）

③「絵本学会」はテレビ絵本、絵本塔絵本も「絵本」にひっくるめて考えているのか？「絵本」の定義の線引きはどのように考えているのか？

絵本の売り方、流通に関して、絵本の消費者のターゲットの階層の中に例えば20代の男性は客になるのか。

(澤田暢)

◆
①ザイロの詩画集『汲む』と『わたしを束ねないで』(白泉社)、町田純作『ヤンとカワカマス』(未知社)。
④私自身は、"手作り絵本"に興味があります。同好の士、或いは講師の方々は、このような企画があったらぜひ知らせて頂きたいです。この会の発展を祈りつつ…。
(萱野浩子)

◆
①松谷みよ子文、味戸ケイコ絵『わたしのいもうと』(偕成社)
柔らかなタッチのイラストで、静かな静かな語り口。これは、「いじめ」をテーマにした絵本です。こんなにおだやかな表現なのに、どうしてこんなに胸をしめつけるのでしょうか。こういう絵本こそ、いつの時代にも語り継がれることを心から願います。
「絵本のワークショップ1、2の3」こどもの城
今夏、駒形克己氏が主催された「絵本のワークショップ1、2の3」に参加させていただき、小2の娘と共に親子で絵本作りを楽しめていただきました。作品を学校に持っていましたら、クラスでも大評判となり、娘も大満足のようでした。駒形さん、その節は、どうもありがとうございました。
④私事ですが、やがて子育てが一段落いたしましたら、絵本作り(特にイラスト)の仕事がしたいと思っているのですが、具体的なノウハウを教えていただいたり、作品公表、交換の場を設けていただければと、強く願っております。今現在の具体的な活動は、ご近所の小学生に絵を教えておりますが、そのうちにみんなで絵本作りができるといいなあ…と思っております。

(藤原詳子)

◆
①ロバート・マクロスキー『すばらしいとき』、ELEONORE SCHMID『The water's journey』、松岡達英・下田智美『木の実とともに』、ガブリエル・バンサン『セレスティーヌのクリスマス』、SATOSHI KITAMURA『Sheep in wolf's clothing』
「エフゲニー・M・ラショフ展—絵本『てぶくろ』の原画を中心として」安曇野ちひろ美術館にて
④海外では自然科学系の絵本が数多く出版されていて、大人でも充分満足できる品の高さを持っている。日本でも色々見かけることはできるが、さらに工夫をこらして文章・絵共にすばらしい作品が生まれることを望みたい。

(阿部記子)

◆
①工藤直子作『ともだちは海のにおい』(理論社)
モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』
マリー・ホール・エツツ『赤ちゃんのはなし』、『もりのなか』
④たくさんの本があふれている今、昔から受け継がれてきた本、質の良い本を子供達に読んであげよう。子供にとって絵本がいつでも楽しみを感じられるものになるように…。そのためにまず、親が絵本に親しみたくさんの本と出会い、絵本を好きになろう!という趣旨のもと、今年から娘の通う幼稚園で保護者向けの「絵本の会」ができました。私は保護者の一人ですが、絵本の勉強を始めたところだったので、代表として園長先生のお手伝をしています。今年は「エツツ」と「ピアトリクス・ポター」の読書会をしました。

(井上陽子)

◆
①『はらっぱ』、長新太作『うみちゃんのまど』
『はらっぱ』は長い年月の定点観測的手法が見事だと思った。『へんてこもりのコドロボー』は絵本ではないが妙に面白く、"まるば"は気に入った。

④情緒障害の生徒が、どんな時、どんな絵本を手にし、どんな反応を見せるか。教室に手持ちの絵本を並べて、今記録を続けている。(林部明夫)

◆
①キース・ベイカー作『Elephants a Loft』、ガース・ウィリアム作『満月の夜まで待ちなさい』、沼田絵本美術館での「森の仲間たち展」、絵本ミュージアム清里での「エロール・ル・カイン展」

④千葉県で絵本の研究活動を行っている方や場があれば紹介してください。松居直さんのお話が聞きたいです。
(有田映子)

◆
①『あーとぶっく』8冊シリーズ

④社会人で、絵本、児童文学、デザイン等を扱っている大学を探しています(関西や京都地域)。情報があれば教えてください。
(広兼香里)

◆
②出版業界のJPAC(出版文化産業進行財団)ではアドバイザー養成講座を設けており、修了後は仲間達が集まって日本各地での読書に関わる活動を行っています。私もやはり絵本読みのアドバイザーとして、関西の書店、幼稚園で仲間と一緒に活躍しています。今の子供たちの絵本環境は、さまざまなメディアや大人の生活変化によって、大変悪い方向へと進んでいると思われます。しかし、幼時期における絵本との出会いは、その子にとって人生を左右する程の大きな力になるに違いないと思われます。だから一人でも多くの子供たちに、いい絵本との出会いを行うため、私は絵本読み活動をしているのです。しかし、絵本を一段低いレベルの対象として見なす人が多く、絵本に限らず、子供の人格を認めなかったり、尊重しないのは社会構造とつながっているのではないかと思うところです。そして、まず大人の考えを変えることで社会全体が良くなるのだとも思ったりします。

(諸岡 弘)

◆
②絵本の表現が絵と文という異なる視覚記号を用いることから、絵本における視覚的な伝達性は、まだ既存社会のステレオタイプの先入観が形成されない子供のような階層にとって、最も理想的なコミュニケーションを行っています。そこで、私は理想的な媒体としての絵本特異の表現と理解のプロセスを表象論的に分析、研究しています。絵本の捉え方は規律や方式にとらわれるより、それぞれの、自分の視覚に合わせて見ることで、より面白く、より価値のある意味を解説していくのではないかと思います。大人にとっても子供にとっても面白い絵本でも、それ面白さの内容は差異が現れるよう、自分にとってより良い絵本、自分が面白いと思う絵本には異なる日常や思考の次元や発見の時空間の相違性が、しかも比較によって理解を与える結果、感じ取れると思います。このような、異なる考えでも互いに交換する中で、より多くのことが分かってくる楽しさもあると思い、「絵本学会」を通して、会員皆さんと共に考えたり、話し合いたいと思います。

(申 明浩)

| | |
|---|--|
| <p>◆</p> <p>②19世紀のイギリスの木版画家、トマス・ビューアイックの自叙伝を翻訳中。4、5行に渡る一つの文や方言などに苦労しつつも、龜のようにノロノロと進めています。</p> <p>(中川達夫)</p> <p>◆</p> <p>②動物絵本に興味を持つ動物園野獣医です。動物絵本のデータベースを作るのが夢です。ヘビが主人公である絵本『へびのクリクター』等はもちろん、ヘビが脇役の絵本（？）などをも、検索もたちどころ、リストアップして見せるデータベースが作りたいのです。データベースの知識と時間が欲しいですね。</p> <p>(大丸秀士)</p> <p>◆</p> <p>②「えほんの森」を主宰してから半年が過ぎましたが、インターネット上でのデジタル絵本の世界はまだまだ夢想中です。1998、1999、2000年に「えほんの森」を持続させたいのですが、人と人とのネットの中にこの答えがあると思います。毎年一作のCD-ROM 絵本を制作していきたいと思ってます。掲載は無料で、配布もやはり無料の予定です。またご案内しますので、よろしく。</p> <p>(えほんの森)</p> <p>◆</p> <p>②「安曇野ちひろ美術館」の松本館長、竹迫事務長のお力添えで全国学校図書館協議会絵本委員会から、委員長の岩田斎先生と、飯島先生を講師に迎えて、ただ今、創作絵本教室「私がつくる絵本」が進行中です。10回のうちの前半が終わり、20名全員が、ソフトカバーの絵本を1冊仕上げ、後半は、ハードカバーのも1冊に取り組み中です。保育つきなので、20代後半の子育て中の母さんから、70代までの方が参加されています。「大変だ！大変だ」といいながらも苦しみ（？）の中に言葉にならない感動があるようです。図書学科の今野先生も応援に加わって下さり、公民館という贅沢できない場所で先生方のご好意でなんとも贅沢な講座を展開中で参加者からは喜ばれ、感謝され、公民館としても手応えがあります。最終回の日（12月2日）の発表打ち上げ会が楽しみです。</p> <p>(大宮市植竹公民館 永井和子)</p> <p>◆</p> <p>②本年7月1日絵本を初出版いたしました。さく、え：おおたにけいこ『貝のぼうやのものがたり』（六甲出版、1700円税込）。</p> <p>(大谷恵子)</p> <p>◆</p> <p>②絵を描くのが好きで創作絵本に取り組んでいます。将来出版できたらイイナ…と思っています。</p> <p>(黒沢眞由美)</p> <p>◆</p> <p>②私は、公認会計士、税理士を職としており、そのせいか、「絵本は面白い」と言うと、周囲の人は怪訝な顔をします。確かに私の職業は、経理数値の「積み上げ」の世界であり、絵本とは無縁のように見えます。しかし企業や世相を「見る」という本来の職業上の守備範囲からいえば、「縦横斜めからの視点」は絶対に必要な職業だと思っています。</p> <p>その意味で、私の絵本に対する関心事は、ページをめくる毎に作者がどんな飛躍をしてみせるかという点にあります。それを期待して、いささか場違いな風体ながらも書店の絵本コーナーを「巡回」し、</p> | <p>新作の絵本の品定めをしています。従って、絵本の原画というものは興味がなく、商品として完成した立体の中にこそ、絵本芸術としての本質があると思っています。</p> <p>(千田 篤)</p> <p>◆</p> <p>②今年3月画家である父を亡くしました。父らしく、私らしく「個展葬」という形をとり、お返しは、「絵本としました。その絵本は地雷撤去した平和な土地を作る一助となるそうで、「死」にともなって動くお金で平和な大地が増えるのは、一つの「メルヘン」となりました。</p> <p>父の生前購入した『the giving tree』（与えつづける木）という絵本を今見ますと、新たに与えつづける木であった「父」を想います。幼き日毎日絵本を買ってきていた「父」に感謝。</p> <p>今、博物館職員となり、志を継ぎ絵本を愛していきたいと想います。</p> <p>(島原朱海)</p> <p>◆</p> <p>②私は、絵本について特別の知識があるわけではなく、これから絵本学会を通じて勉強していきたいと考えています。そこで、何か少しでも（雑用など）お手伝させてください。大学4年生なので、平日でも休日でも時間はあります。（残りわずかですが。）よろしくお願いします。</p> <p>(渡部 愛)</p> <p>◆</p> <p>②障害をテーマにした写真絵本『ぼくたちのこんにゃく先生』に続いて、『ぼくのおにいちゃん』を今年7月に出版しました。</p> <p>(星川ひろ子)</p> <p>◆</p> <p>②図書館に勤めている関係上、絵本の出版内容が外国・日本共に気になっています。そこで、今の絵本の傾向や情報、または研修会があればアプローチしたいです。例えば、絵本の図像学的分析、文に対する構造学、絵本を描く講座など。</p> <p>(桐原光明)</p> <p>◆</p> <p>②'98年英国祭皮切りイベントである「イギリス絵本の世界展」を企画、準備に追われています。本展はイギリス絵本の第二次黄金時代を築いたワイルドスミス、キーピング、ブレイク、アンプラス、フォアマン、ブリックズ、ブラウン（紹介順）に焦点を当てた絵本原画展です。本展の準備を進めるにつれ、メディアとしての絵本の可能性というものへの関心が高まってきた。この点につき、研究部会などありましたら教えてください。</p> <p>(ブライアン・ワイルドスミス美術館 元木郁子)</p> <p>◆</p> <p>②「ヴァンテ '98 世界の絵本展」を'98.4.18(土)～5.13(水)に開催いたします。よろしくお願いします。</p> <p>(フジタヴァンテ 山口和美)</p> <p>◆</p> <p>②親子の造形講座を教えています。その中で絵本講座も取り入れていますが、アートを中心とする作り方をしています。</p> <p>③長い文学作品ではなく短いもので、楽しいストーリーの作り方を教えてください。</p> <p>(上田富佐子)</p> |
|---|--|

◆
②創作絵本の試作中

③会員の交流を深める方法として、会員の活動の証拠として、年一回は会員による展覧会を開催して欲しい。

(渡辺 徹)

◆
②絵本の「読み」と「語り」を中心とした地域活動のサークルが発足して2年目。文化的な遅れが目立つ地方の町の、しかも生まれ故郷である上田で、私はこれから何ができるのかを課題にし、考えています。

④個人的には、絵本に強い興味を持つ人々が徐々に増えていると確信する中で、そういう人達と一緒に、歩けるところまでは歩きたい、と思っています。

(稻垣勇一)

◆
②絵本は子供達にとって発育過程の中で大事な栄養素であると思っている。文字が読めない時は親のやさしい声で読んでもらい、絵と文章を一致させて楽しみ、自分で読めるようになればその年代なりの理解度で楽しむ。そして情操が育っていく。しかし、障害を持った子供達は、その楽しさを奪われている。目の不自由な子や、知的障害を持っている子達でも、楽しむ環境さえあれば充分楽しむことができるのだ。

障害児用の絵本を作りながら、これを読む、または読んでもらう子供達の顔を思い浮かべている。

④欧米のように障害児のための本の展示会を開き、こんな本が世界中にあることを知らせたい。

(久保田正子)

◆
②今年6月発足しました幼稚園(我が子)の中でパネルシアター、ペーパーサート、紙芝居、絵本の読み聞かせ等をしています。子供達の反応を見ながら現在模索中です。

今の子供達を取り巻く環境は、ますます悪くなる一方で、大人達からのもの同じ世代の仲間からのもの。何が良いことで何が悪いのかを選択していく子もいるようです。幼稚園での子供達の目は清く輝いて心は純粋であるはずなのに、だんだん成長するにつれ変化していってしまう子が多くいるように思われます。

人が生きていくために、大切なのは健康な身体と心です。温かな触れ合いや語らいがあって、家族に見守られて成長していく、自分の意志を持ち、物事の善悪も判断できるものだと思います。

その一つの方法として絵本の「読み聞かせ」があります。生意気で少々乱暴な子供でも、目を合わせ、真剣に語り合えば、こちらに心を向けてくれるのであります。私達が声かけをすると、ほとんどの子が反応してくれます。

からの活動には、こちら側からの一方的なものではなく、子供とのつながりを重視したものにしていきたいです。

④絵本は大人も楽しむものとよく聞きますが、絵本作家の方々には、幼稚園児や小学校低学年生の視点に基づいて、子供が求めている物事や子供が喜怒哀楽の感情を表現できる作品を作って欲しいと思います。

また、母親達の活動があったら教えてください。新刊の絵本の情報や展覧会の情報なども知りたいです。

(香川明美)

◆
②絵本の翻訳

④『不思議な国のアリス』、『ピーター・ラビット』『マザーグース』等の絵本のキャラクターの研究をされている勉強会がありましたが、参加あるいは聴講したいです。(大学の授業でも…)

(長友恵子)

◆
③事務局の方には大変なお願いかも知りませんが、たった一人の母親の生意気を言うとすれば、私は「絵本学会」が大げさに言うと「日本における絵本文化をこの会が背負うぐらいいの会」で欲しいのです。そのためには、もっと活動の場を広げ、さまざまな専門分野同士の交流を深化させるのに必要な情報やデータを作成して欲しいです。(絵本に関して活動している団体、場所などや会員からの情報収集等)日本全国の絵本愛読者なら誰でもが知る、そんな会になれたら、きっと荒廃しかけている子供達の心を救うこともできるのではないかでしょうか?

「本」はたった一冊でも子供の心と交流する力になれるはずです。だから「絵本学会」がその役目を果たして欲しいのです。これだけ専門の先生方々がいらっしゃるのですから!

(小泉恵子)

◆
③学会には純粋な絵本論が展開できる場を設けて欲しいと思います。例えば「見開き」という絵本言葉の場合、実際の絵本の事例を挙げながら分析する等。議論上での、そして「見開き」という絵本用語についても絵本学会は認定し、さらに分類化して(形式的に、決定してしまわないで、例外があればそれも多様性として残して議論してゆく)、同じ形式をもつ他の分野と比較してみる等々の学術的な活動部門も設けたらと思います。

絵本作家の発表の場や絵本編集者の告知の場は他もあると思うので、絵本学会は学会らしい特色を出して欲しいです。(絵本評論の場は学会の性格によって多少のずれはあると思われますが、あまり場のない絵本世界にそのような部門を設けたら良いのではないかと思います。)月刊『絵本』誌は創刊号から読んでますし、「ピーブー」誌の存在も知っていますが、それらと同様の活動では、多分、学会の長い存続はできないのではないかと考えます。絵本作家がばかりかしいと思われる程、くそまじめな議論をするのが学会ではないかと思ったりもしますが。その中から、新しい絵本が生まれるかどうかは、受け取る側の問題であって、学会とは別の次元だと思います。

(仁井清志)

◆
③「絵本学会」と銘打って発足したものの、目的がどうもはっきりしていない気がします。課題を出して、公募し、その中からしづつ方向性を検討するのはいかがでしょうか。

(高木温子)

◆
③子供がいる普通の親としてはなかなか参加しにくそうな、そんな気が少々思われ、思いとは違いを感じました。

専門家のご意見ももちろんうかがいたいので入会したのですが、制作サイド、流通サイド、保母、保父、そして、親及び子供の幅広い意見をききたいと思います。いろいろアンケートをとったらどうでしょうか。

(仁科由香利)

◆
③いつもは三人の娘の母としてしか時を過ごしていない私ですが、事務局の方からの便りがある度、もう一人の私の時を過ごさせていただきありがとうございます。あと5、6年したら私のできる範囲でお手伝いできればと思っております。学会がきっかけで人の優しさを思い起こすことのできる絵本の穏やかな波がゆっくりと世の中に広がっていけばと思います。

(福永朋子)

◆
③絵本に関する情報なら何でもいいです。いろんなことを知りたいと思っております。どんなことでも載せてください。第2号楽しみにしています。

(矢谷芳子)

◆
③5月、会員にさせていただいてから、全く学会からの連絡がなく、入会金等の使い道、方法などのお話を伺いたいと思います。

(鈴木文枝)

◆
③学会の機関誌はいつ頃から刊行しますか?

(佐々木宏子)

◆
③早く絵本学会News第2号を読ませたいただきたいと思っています。

News1号につき一人の絵本作家をクローズアップさせたコーナーを作っていただけたら、と思っています。(田中久美子)

◆
③学会が外に開かれて設立されたこと、とてもすばらしく、ありがとうございます。絵本そのものも絵本学会も、未知数だからこそ、なにかワクワクします。私自身は「絵本」と「こども」をみつめつづけていきたいと思っています。これから活動、楽しみにしております。

(撫上久子)

◆
③専門分野別の支部会を発足させて月例会が開かれることを希望いたします。

(磯崎京子)

◆
③近々、産経新聞文化欄に少年、少女向き図書のイラストの在り方について執筆の予定です。絵本学会のますますの発展を祈願します。

(水野良太郎)

◆
③絵本学会のHome Pageリンク集に入れていただきまして誠にありがとうございます。

(えほんのみせ リトルベア)

◆
③倒産してしまった出版社の絵本はもう手に入らないのでしょうか?もしそうなら残念です。

小さい子供に読み聞かせをしていますが、聞こうとする子、関心のない子その差はどこからきているのかなど疑問です。

(木村由美子)

◆
③年度別の今一番読まれている絵本の情報やその年に発行された絵本の原画展をやって欲しい。

(柳川 亨)

◆
③・絵本作家の講演会(どのように絵本を作っているのか、テーマの選び方等)

・海外の絵本関係者の講演会(作家、編集者、研究者等)

・絵本の枠を広げるための活動(絵巻き物等の解説つきの見学会や、一枚の絵からストーリーを作くっていく試み等)
以上のような企画を希望します。

(野坂悦子)

◆
③「学会」と呼ばれるけれど、学術的な部分はフォーラムのごく一部であるという基本姿勢を忘れないで欲しいです。学術的な会の中に一部フォーラムがあったり、専門的な研究の材料として活用するためにフォーラムがあるという形ではなく、あくまでも開かれたフォーラムの中に、時や会員の意思に応じた形のフォーラムとして、自由に学術的、専門的な研究が行われたら良いと思います。

(一戸美穂)

◆
③実験的なことをして欲しい。そして、公開討論の場等も設けて欲しいので期待している。

④頭がでっかちにならない程度たくさん、多分野で活動する人の話を聞きたい。

(垂石真子)

◆
③まだまだ具体的な活動の声が聞こえてこないので残念です。第2号の会報を楽しみにしていますが…講座等にも期待しています。

おすすめの雑誌は『MOE』です。作者、作品、共に充実しています。掘り下げられたものになっています。これを一年読んでいれば、かなり絵本のことにも詳しくなります。

(佐々木智子)

◆
④ただ絵本が好きなだけで、今のところ特別に絵本と関わる仕事はしていません。絵本に関する催しや、絵本に対する討論情報を楽しみにしています。

(牧田美保子)

◆
④専業主婦です。東京で開催される集まりにはなかなか参加できませんので、地方(名古屋)でもいろいろな行事を行って欲しいです。専業主婦でも絵本と直接関わる皆さんと話ができる場が設けられるのなら子供を預けても参加したいから…。

(渡辺真奈美)

◆
④絵本とは直接的な関係はないのですが、来春「いわむらかずお絵本美術館」がオープンする予定です。とても楽しみです。

(関谷 秀)

◆
④日本の絵本の舞台は、森や野原などの自然空間が多く扱われる反面、不思議がいっぱいの描かれた街や建築を舞台にした絵本は少ないと思われます。街や建築を巧みに絵本の舞台にしたものに関心が

あることから、収集、研究しようと考えているので、この類の絵本を知っている方からご教示いただければ幸いです。

(吉田正明)

◆④東京の郊外で、みるみるうちに草原がマンモス都市に変貌する。ブルドーザーに追われて住みかを探し、途中でこときれるモグラに、強いメッセージをもらい、「村おこし」の一つの形として、地元の教育委員会の英断で、『そうふけっぱらのきつね』(梶山俊夫画)という絵本にして残すことができました。

このコンセプトで、学会の仕事として全国に呼びかけてはいかがでしょうか。絵本は、子供も大人も共有できる場なので、表現形態としてふさわしいと思ったのです。

(柴崎俊子)

◆④11月にL.A.で子供のためのGOODSの展示会があると聞いておりますが、その会で紹介されている(とりあげられている)絵本についての情報があれば知りたいと思っています。

(古沢英子)

◆④高年齢の方達に、昔話の読み・語りを指導しております。語りを覚えるのが辛い方には、絵本、紙芝居を薦めております。演ずる側も聞く側も大層喜んでいるようです。特に紙芝居の場合、老人ホームなどでは昔話がナツメロのような共感を呼ぶのでしょうか、痴呆症の方もじっと見てください。(桃太郎、舌切り雀のような)紙芝居は絵本の部類に入るのでしょうか。地方(千葉)の昔話等を紙芝居にして下さる作家の方はいらっしゃいませんでしょうか。昔話を伝えるのに、一番分かりやすく楽しいと思っております。ご一考下されば幸せです。

(桧垣順子)

◆④知りたい絵本があります。今から10年前、まだロシアになるかならないかのソ連の作家が絵本『火の鳥』を書きました。京都丸善の「世界の絵本フェア」か何かで出会ったのですが、買うチャンスを失った今はとても後悔しています。黒の背景色に鮮やかなピンクやオレンジのクレパス? アクリル絵の具? で火の鳥の物語を描いたものですが。作者と出版社(もしかしたら米・英でも出てるかも)に心あたりのある方、教えてください。

(新保ゆかり)

◆④絵本については、書店における情報しか入ってこない。展覧会情報についても同様。むしろ積極的に情報公開のネットワークづくりを期待します。

(駒形克己)

◆④装飾の心理学全般、その生成、意味付け、過剰と単純化、権威、悪趣味等々について、アドバイス願える方を捜しています。形、色などまで含めて、幾何学から認知の領域まで色々と…。

(福田雅一)

◆④私は絵本の全体をまず知りたいです。日本での絵本の歴史や、ベストセラー、それがなぜベストセラーになったのか、子供にどう読ませるのか、役目など。それと今一番人気の絵本は何か、それはな

ぜか。母親の世代で変化していくのか、世界ではどうなのか。絵本を取り巻く環境、これからの絵本の、コンピューターと絵本、CD-ROMの絵本など。

(井下みどり)

◆④絵本らしきものを書いた時に自分で製本したいので、こうやった方がいいという方法を教えてください。

(時田美由紀)

◆④長野県、愛知県、岐阜県の17グループでつくる「手作り絵本巡回展」が毎年4月から7月にかけて3県を回ります。世界で一冊しかない、遊び心満載の手作り絵本が200点集まります。

皆さん是非見に来てくださいね。

(鈴木むつみ)

◆④大手出版ものだけでなく、自費出版された絵本の紹介をして欲しい。(良いものの選出は難しいかもしれませんが…)

一冊の絵本を、作者側から、大人の目から、子供の目から、幼稚園などの現場からとか色々の視点で分析して欲しい。

(みずまちようこ)

◆④JULA出版からの季刊『芽』という雑誌が出版されており、毎回掲載されている「絵本講座」と「東西南北子供の本屋さん」がためになる内容と思います。

(花原幹夫)

◆④モーリス・センダックの『かいじゅうたちのいるところ』が何ヶ国で訳されているのかについて知りたいです。大学4年で絵本について副論文を書いていたりますが、今後も絵本に携わっていきたいです。

(小久保明子)

◆④近所に専門店がないか、全国の絵本専門店のリストが欲しい。

(伊藤裕美)

◆④コルデコット賞、ケイト・グリナーウェイ賞、金のリンゴ賞等、世界的な規模の絵本事情を知りたい。

(広田真智子)

◆④9月11日、『ネットィーのこころで使うコンピュータ』(みくに出版)が発売されました。弊社で企画、編集、デザインしたもので、日本では初めてコンピュータモラルをテーマにしたものです。アメリカの作家、イラストレーターによる書き下ろしは、コンピュータの優れた素材によってでき上がっています。コンピュータには心がないと言われあまり好まれず、人の代わりにはなれないけれども、ストーリーを通して子供に語りかけるようになっています。子供用のコンピュータシリーズの第1巻を完成した今は、第2巻how to useをテーマにした『ネットィーのすぐできるコンピュータ』を制作中です。来年春刊行予定。((株)エアー 楠田尚美)

information

●絵本関係展覧会・イベント

●世田谷文学館

1998.2.14(土)～4.5(日)

《写真展 アルプスの少女ハイジ》

永遠の名作の舞台をたずねる写真展。作者ヨハンナ・シュピーリとハイジの世界を写真約120点と関連資料で紹介。

記念トーク＆サイン会：1998.2.14 (土) 14:00～15:30

矢川澄子（作家・詩人）

《香山彬子 絵本原画展》

香山氏より寄贈された資料850点の中から、「シマフクロウの森」などの挿絵原画200点と図書、原稿、調度品を展示。

《連続講座 おとなからこどもへのメッセージ》全3回

第1回 1998.2.20(金)10:30～12:00

「絵本を選ぶ目」広瀬恒子（月刊『子どもの本棚』編集長）

第2回 1998.2.28(土)14:00～15:30

「金子みすゞの詩の魅力」矢崎節夫（童謡詩人）

申込制。往復ハガキに①希望講座名 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤性別

⑥電話番号を明記し、当館学芸課へ。1月31日消印有効。各講座は抽選40名。

【開館】10:00～18:00（入館は17:30まで）

【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）

【入館料】無料

〒157 東京都世田谷区南烏山1～10-10

☎ 03-5374-9111

●ちひろ美術館

1997.10.9 (木)～1998.1.15 (木)

《瀬川康男・絵本の世界》

『ぼうし』『ふたり』『むしのわらべうた』などの絵本原画をはじめ、虫や植物の細密スケッチ、珠玉の作品とも言える絵本の雰囲・豆本などを展示。

*板橋区立美術館「瀬川康男展」1997.11.29(土)～1998.1.11

(日) 初期の油彩画から近作のテンペラまでのタブローと、絵本原画、版画などによる瀬川画業の全貌展。こちらも併せてご覧下さい。

《画集『ちひろ美術館』出版記念展 4・旅ものがたり》

旧ソビエト、ヨーロッパ、ハイ、日本など、いわさきちひろの旅先でのスケッチの数々、また旅情が息づく絵本原画を中心とした展示。旅の写真や紀行文などとともにちひろの旅の軌跡をたどる。

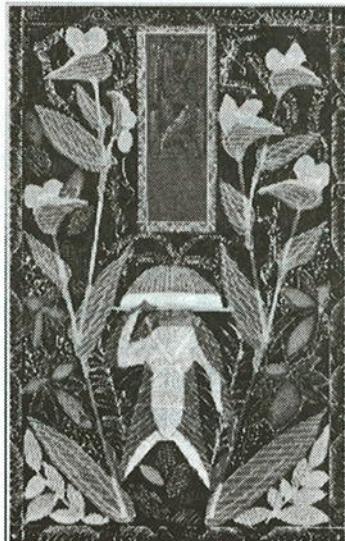
《イベント》

○瀬川康男絵本研究会

〈前編〉1997.12.22 (月)

15:00～17:00 「初期絵本から小本まで」

〈後編〉1998.1.12 (月) 15:



00～17:00 「80年以降の絵本を中心に」

休館日の展示室を利用して、ゆっくりと原画鑑賞をたのしみながら、瀬川康男さん他を招いて、絵本について話し合います。

○ワークショップ

1998.1.14 (水) 10:00～11:30 広松由希子（ちひろ美術館学芸員）

「‘もっと’ ちいさいひとたちのためのギャラリートークとえほんのじかん」

※2～4才のお子さんと保護者対象

なお、板橋区立美術館では3～6才を対象に、「ちいさいひとたちのためのギャラリートークとえほんのじかん」を行います。(12/2開催)

○ちひろ美術館・板橋区立美術館共催

〈シャトルバスを使っての親子観賞会〉1997.12.21 (日)

板橋区立美術館とちひろ美術館の鑑賞バスツアー。各館で特別ギャラリートークなどが行われます。

【開館】10:00～17:00 (金曜日は19:00まで)

【休館日】月曜日 (祝日開館、翌火曜日休館)、年末年始12月28日～1月4日午前中／冬期休館1月16日～2月10日

【入館料】大人500円・中高生200円・小学生100円

〒177 東京都練馬区下石神井4-7-2

テレホンガイド: 03-3995-0820

●軽井沢絵本の森美術館

1997.10.9 (木)～1998.1.18 (日)

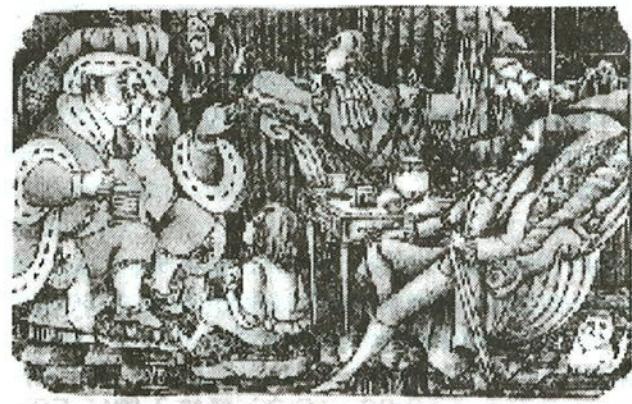
《欧米絵本のあゆみ》

・常設展 (第1展示館): 17世紀からの絵本のうつりかわり

欧米絵本の歴史を追しながら、作者について、またそれぞれの絵本が生まれた背景などについて、パネルや初版当時の古書絵本にて紹介。

・収蔵品展 (第2展示館): 「現代ヨーロッパの絵本」

イギリスのバーナディット・ワット、フランスのドロテ・ジュンツ、イスのマーカス・フィスター、ハンス・ド・ビア、ドイツのヤーノシュ、ポーランドのヨーゼフ・ヴィルコンほか、ヨーロッパで活躍する作家の原画と絵本を中心に展示。



1998.2.6 (金)～2.16 (月) および3.1 (日)～6.21 (日)

《アメリカ絵本の60年・コールデコット賞の絵本展》

【開館】12月: 9:30～17:00、1月～2月: 10:00～16:00、

3月～6月：9:30～17:00

【休館日】火曜日（12/23・5/5は開館、5/6休館）、12月26日

～1月1日

【入館料】《歐米絵本のあゆみ》大人700円・中高生500円・小学生400円 《アメリカ絵本の60年》大人800円・中高生500円・小学生400円

〒399-01 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢82-1

☎ 0267-48-3340

●大島町絵本館

1997.12.2（火）～1998.1.30（金）

《渡辺俊明『赤い手ぶくろ』絵本原画展》

1997.12.2（火）～12.27（土）

《第4回手づくり絵本コンクール入賞絵本展》

《第3回最優秀賞作品『にじいろのすず』絵本原画展》

1998.2.1（日）～3.29（日）

《林明子 絵本原画展『びゅんびゅんこまがまわったら』》

1998.3.1（日）～3.29（日）

《絵本教室受講生の絵本展》

《イベント》

1998.3.15（日）「おおしま 絵本のつどい」

会場：県民会館大ホール

○大助・花子の絵本トーク

○絵本原画展

○絵本作りワークショップ 他

【開館】10:00～18:00

【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）、月末日

〒939-02 富山県射水郡大島町鳥取50

☎ 0766-52-6780

●ブライアン・ワイルドスミス美術館

1997.11.20(木)～1998.2.3(火)

《本質を描くワイルドスミス～もっとよく見てみよう！～》

子どもと同じように、ことばでなくものの本質を感じ、それを絵に表現しているワイルドスミス。匂いや音や質感まで感じさせる

“生きた絵”を「動物」「太陽」「風や音など無形のもの」といったテーマに分けて紹介。

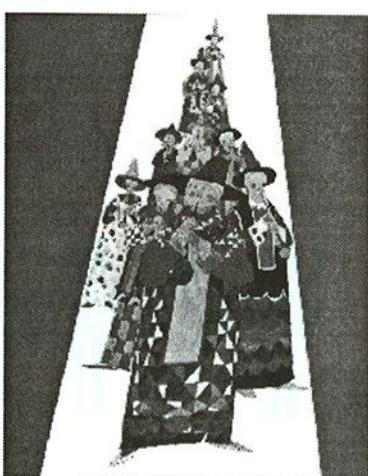
【開館】10:00～17:00

【休館日】水曜日（年末年始・祝日開館）

【入館料】大人700円・小学生500円

〒413-02 静岡県伊東市大室高原9-101

☎ 0557-51-7330



●弥生美術館

1998.1.4（日）～3.29（日）

《鞍馬天狗展～昭和のヒーローの誕生～》

1997年10月で生誕100年を迎えた大仏次郎の『鞍馬天狗』の世界を挿絵と映画資料で紹介。

【開館】10:00～17:00（入館は16:30まで）

【休館日】月曜日

【入館料】一般700円・大高生600円・中小生400円（隣接の竹久夢二美術館と共に）、立原道造記念館も観賞できる三館共通券（1000円）もあり

〒157 東京都世田谷区南烏山1-10-10

☎ 03-3812-0012

●竹久夢二伊香保記念館

・夢二記念館本館「大正ロマン夢の館」

1997.11.1（日）～1998.1.20（火）

《長田幹雄コレクション展》

長田幹雄コレクションの中から、夢二の肉筆、雑誌切り抜きの子供絵を展示。

1998.2.1（日）～4.20（月）

《初期の水彩画と遺品展》

長田幹雄コレクションの中から、夢二の初期の水彩画や手製のスクラップ、アルバムなどの遺品を展示。

《常設展示》

「群馬と夢二」群馬県と夢二との関係資料の展示

「浦本政三郎博士と夢二の部屋」浦本博士のコレクションを展示

「長田幹雄記念室」夢二研究の第一人者長田幹雄氏から寄贈された夢二研究資料と夢二作品を展示

・夢二記念館新館「夢二黒船館」

1997.12.1(月)～1998.3.31(火)

《夢二のデザインにみられるモダン（ ）》

夢二のデザイナーとしての活躍をデザイン原画や版画、楽譜などで紹介。約120点。

【入館料】大人1500円・小中生1200円（本館・新館共通券 オルゴール館券付）

〒377-01 群馬県北群馬郡伊香保町544-119

☎ 0279-72-4788

●小淵沢絵本美術館

1997.12.20（土）～1998.3.31（火）

《パディントン・ベア絵本原画展》

ロンドンに実在する駅名から名前をもらったクマの子ども、パディントンは、イギリスを舞台に楽しい騒動を巻き起こします。フレッド・パンペリー、ディビッド・マッキー、ジョン・ロバン、ニック・ワードラが描いたパディントンの世界を紹介。

【休館日】水曜日（ただし12/20～1/15は無休）、2月は土日祭日のみ開館

【入館料】600円（飲物サービス付）

〒408 山梨県北巨摩郡小淵沢町上笹尾字篠原3331-441

☎ 0551-36-5717

●絵本の樹美術館

1998.3.14(土)~5.31(日)

《カナダの絵本と子ども文化展》1階

《布の絵本展・野口光世》2階

[開館] 10:00~17:00

[休館日] 水・木曜日(祭日・3月・8月無休)、11/25~3/13は冬期

休館

[入館料] 大人600円・3才以上~中学生300円

〒409-15 山梨県北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-4579

☎ 0551-38-0918

●黒姫童話館

1998.3.20(金)~6.28(日)

《ミヒヤエル・エンデ特別展Ⅲ》

ミヒヤエル・エンデは5回に渡る来日を通じ、能、歌舞伎、禅、弓道などの日本文化に深い関心を示し、これらの体験が物語の構想に強い影響を与えたといわれています。本国ドイツに匹敵するほど多くの愛読者を日本にもつといわれるエンデ氏と、日本との関わりを、様々な遺品や資料に即しながら紹介する試み。

[開館] 9:00~17:00

[休館日] 3月・5月・6月・9月・10月・11月の末日(日祝日の場合は翌日)

[入館料] 一般600円・3才以上~中学生400円

〒389-13 長野県上水内郡信濃町黒姫高原3807-30

☎ 026-255-2250

●ペイネ美術館

1998.1.1(木)~3.20(金)

《収蔵品展》

「ペイネの恋人たち」シリーズで知られるフランスの画家、レイモン・ペイネの作品を展示。館所蔵による水彩画・ペン画・リトグラフ作品など約60点で構成。最近新収蔵となった作品もご覧いただけます。

[開館] 10:00~16:00

[休館日] 火・水・木曜日(年末は12/24まで開館)

[入館料] 大人900円・小中生500円

〒389-01 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢217

☎ 0267-46-6161

●おかざき世界子ども美術博物館

1997.12.20(土)~1998.2.15(日)

《おもちゃ博物館パート2 帰ってきた!ヒーロー博物館》

鉄腕アトムやウルトラマン、仮面ライダー、鉄人28号など、かつての少年の憧れだったあのテレビのヒーローたちが大集合します。

1998.2.20(金)~3.10(火)

《所蔵品展》

1997年度までに当館が収蔵した作品を展示する予定。

1998.3.14(土)~4.21(火)

《第10回リトルアーティスト展》

第10回リトルアーティスト絵画コンクールにおいて入賞、入選した子どもたちの力作を多数展示。

〒444 愛知県岡崎市岡町字鳥居戸1番地1 岡崎地域文化広場

☎ 0564-53-3511

●お知らせ

インターネット版 新着資料情報を発信しています!

○掲載内容

・古書(1950年までに発行された資料を対象としています。)

〈図書〉1997.8.1~10.20に当館に受け入れた和古書の図書を掲載。

〈逐刊〉1997.8.1~10.20に当館に受け入れた和古書の逐次刊行物を掲載。

・新刊(1997年に発行された資料を対象としています。)

〈図書〉1997.10.1~10.20に当館に受け入れた新刊の図書を掲載。

〈逐刊〉1997.10.1~10.20に当館に受け入れた新刊の逐次刊行物を掲載。

・紀要論文

1997年に発表された児童文学に関わる研究論文を掲載。

○データの更新

・毎月10日に更新しています。

○ホームページアドレス

<http://www.ksi.ne.jp/iiclo/>

なお、洋書も近日掲載の予定。乞うご期待!

財団法人 大阪国際児童文学館(賛助会員)

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園10-6

☎ 06-876-8800 ■ 06-876-8686



KATSUMI KOMAGATA

事務局からのお知らせ

●第1回絵本学会大会(1998年度)開催のご案内

第1回絵本学会大会は、1998年6月6日(土)・7日(日)の二日間日本女子大学で開催することが決まりました。大会プログラムは、以下の通り予定しておりますが、詳細は4月にご案内いたします。

1998年6月6日(土)

- 13:00 ワークショップ受付
- 13:30 ワークショップ開始
- 16:30 ワークショップ終了
- 16:30 総会受付
- 17:00 絵本学会総会
- 17:45 総会終了
- 18:00 懇親会
- 20:00 懇親会終了

1998年6月7日(日)

- 9:00 第2日目参加受付
- 9:30 研究発表開始
- 12:00 研究発表終了
- 昼食
- 13:00 ラウンドテーブル(分科会)開始
- 15:00 ラウンドテーブル(分科会)終了
- 15:10 全体会(各ラウンドテーブル報告)、ディスカッション
- 16:30 全体会終了
- 16:35 閉会の辞

●第1回絵本学会大会研究発表者の募集

○研究発表募集要項

1. 発表者の資格 絵本学会の会員であること。
2. 発表テーマ 絵本および絵本に関連のある研究テーマで、未発表のものに限ります。
3. 発表時間 研究発表 25分、質疑応答 10分とします。
4. 申込締切 1998年3月10日までに必着のこと。
5. 申込要領 ①発表テーマ②発表者の氏名③所属機関④発表要旨(800字程度)⑤発表の際使用する器材(スライド・プロジェクター、OHPなど)を、A4用紙にワープロで横書きし、絵本学会事務局にて郵送してください。(FAXによる申込は受け付けません)
6. 発表者の決定 受理した発表要旨は、運営委員会で検討した上で採否、順番などを3月中にお知らせいたします。

*受理した原稿は、返却しませんので必ずコピーをおとりください。

●理事会・運営委員会

9月13日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室
議題

- ・専門委員会からの報告
- 企画委員会より委員の構成について提案があり了承された。また、企画案が提示され検討、継続審議して行くことになった。

・『絵本学会ニュース』2号の記事内容について

・会員名簿の発行について

絵本学会専用の封筒を作成することが了承され、デザインを駒形克己氏に依頼することになった。

・その他

10月25日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室
議題

・第1回絵本学会大会について

1998年6月6日(土)・7日(日)の二日間日本女子大学で開催することが決まった。

・企画委員会からの企画について

企画委員会より「絵本学フォーラム'97」の企画案が出され、検討の結果、名称を「絵本フォーラム'98」として開催することを決定、日時、場所、テーマが確認された。

・機関誌の発行について

出版編集委員会より現況報告があり意見を交換、引き続き検討していくことになった。

・後援企画について

宮利を目的としない企画には積極的に後援として参加することが確認された。なお、後援については、その都度運営委員会にはかり検討していくことになった。

瀬川康男展とともに企画について、絵本学会も後援することになった。

・その他

11月29日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室

議題

・第1回絵本学会大会について

大会校である日本女子大学石井光恵氏より大会プログラム案が出され承認された。

・「絵本フォーラム'98」について

企画委員会より各部会の発表者、当日のプログラムの進行など詳細な案が提出され、告知、広報の方法などが検討された。

・『絵本学会ニュース』2号の記事内容と発行日について

・その他

●専門委員会から

研究委員会

前号ニュースレターに記したことをなお検討中の段階です。

「研究」というと、この分野では、調査、考察、思索などを、なによりも言語をメディアとして提示するという営みがイメージされ、それは、もちろん、まず大切なことですが、絵本についての研究には、いわば「言語から離れた」スタンスも大切ではないでしょうか。

アイデア、ご意見などを委員長(増成隆士 TEL 305-0005 つくば市天久保4-7-12 / Eメール masunari@mailhost.net)宛にお寄せいただければさいわいです。

出版編集委員会

1号のニュースでお知らせしましたように、どのような体裁で、どこで発行するのか、まだ決定するまでに至っておりません。まず、このことを決めなければなりませんので、その作業を続けています。今しばらくお待ちください。(澤田)